

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570100713		
法人名	社会福祉法人 晩会		
事業所名	グループホーム あかつきの里		
所在地	山口県下関市汐入町36-6		
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果市町受理日	平成26年6月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者・ご家族・職員が安全と安心の中で共に支え合うことを目指しています。手作りの物に囲まれ、温かい環境の中でゆったりとその人らしさを大切に…レベルの差がある18名ですが、さりげなくお互いを助け合い生き生きとした言動・笑顔で過ごして頂けるように優しいケアに心掛けています。

入浴は2日に1回、10時から12時までとされていますが、24時間いつでも入浴できるように浴槽に湯を張って準備され、利用者の希望や必要に応じていつでも入浴できるようにしておられます。利用者が得意分野で一人ひとりの力を発揮できるように、食材の下ごしらえや食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけ、手すり拭き、草取りなどの他、カラオケ、貼り絵、ぬり絵、習字、ハーモニカ、ピアノ演奏会、季節行事など、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしておられます。利用者の言葉や行動などをケース記録やセンター方式のシートに記録される他、課題分析表を独自に作成して、一人ひとりの暮らし方の希望や思いや意向の把握に取り組まれています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をホーム内に掲示し、朝礼時出勤職員全員で唱和し常に念頭に置き、日々の生活の中で実践に繋げるよう努力している	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。朝礼時に「理念」と「介護ポイント」を唱和し、日々のケアの中でも職員間で話し合い、共有して、理念の実践につなげるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入し夏祭り、海岸の清掃、海響マラソン大会等地域の行事にボランティアで参加している。利用者は夏祭りでは家族会や地域の方と踊り、夜店、カラオケ等楽しみ交流を図ったり、地区の保育園児や学生ボランティアの訪問等もあり日常的に交流している	自治会に加入し、職員は海岸の清掃活動や海峡マラソンのボランティアなどの行事に参加している。自治会と法人が合同で開催する夏まつりに利用者や家族が参加して、地域の人や子ども、ケアハウスの人達とカラオケ等で交流している。ボランティア（ハーモニカ、ハンドベル、フラダンス、茶話会など）や法人の保育園児の来訪があり交流を楽しんでいる。散歩時には地域の人と挨拶を交わしたり、立ち話をする他、地域の人にもらった花を利用者と玄関先に植えるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、自治会長、民生委員、地域包括センター、家族会の方々の意見を頂くとともに認知症の理解、支援していくことの大切さをいつも発信している		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員共自己評価及び外部評価を実施する意義を充分理解しており、自己評価表は職員全員に配布、記入して貰い後日結果を持ち寄り話し合い、サービスの向上や具体的な改善に向けて全員で取り組んでいる	全職員に評価の意義について説明し、項目毎にグループで話し合って記入してもらい、管理者とリーダーがまとめている。運営推進会議メンバー拡大について、家族の参加から取り組み、自治会長の参加回数が増えているなど、評価を活かした取り組みに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、行事報告、評価への取り組み状況等を報告し、参加者から意見、助言等を頂きサービスの向上に活かしている。昨年度より家族の方にも参加して頂き参加メンバーを拡大している。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、行事報告、外部評価への取り組み状況、入退院報告、避難訓練の報告、運営方針等について報告し、話し合いをしている。メンバーからの助言で避難訓練の状況をDVDに撮って話し合いをした他、熱中症予防について知りたいという要望を受け、地域包括支援センターから指導を受けるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。メンバーの拡大について家族の参加から取り組んでいるが、地域メンバーの拡大までには至っていない。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で連携を取る他は、事故報告の提出時や市役所に立ち寄った時に、相談や情報交換を行い協力関係を築いている。	担当課とは、介護保険の申請や事故報告などで出向く他、電話やFAXで相談をして助言を得たり、情報交換しているなど協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議の他、電話で利用者の状況について相談して助言を得たり情報交換するなど連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員周知徹底しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の鍵は常時開いており、チャイムが鳴ることで出入りの確認をするよう徹底している。	月1回のスタッフ会議時に身体拘束をしないケアについて話し合い、職員は理解し、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関には鍵をかけないで、外出を察知した場合は利用者と一緒に出かける他、気分転換等の工夫にも取り組んでいる。スピーチロックについて管理者が指導する他、職員間でも注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学び全員で確認している。常にマニュアルを目の届く所に置き、日頃から全員で話し合い注意している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議などで制度について学んでいる。権利擁護については現在利用されている方がおられるので生活支援員の方からアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は契約書、重要事項説明書、パンフレットを用いて誠意をもって十分に説明をし、理解納得していただけるよう何度も説明するようにしている。改定等は家族総会にて説明を行い再契約している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の手順は明文化されています。苦情相談の受付窓口は設置し、重要事項説明書にも明示し、会議等も行っている。	第三者委員を選任し、苦情や相談受付体制を明示するとともに、苦情処理手続きを定め契約時に説明している。運営推進会議時、面会時、家族会(年3回)、行事参加時、電話等で意見や要望を聞いている。運営に反映するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月報告会、会議を行っている。職員の意見や提案を議題とし、改善に取り組んでいる	月1回のスタッフ会議や日常の業務の中で管理者は話しやすい雰囲気をつくり、意見や提案を聞いている他、個人面談をすることもある。職員からは利用者の健康状態の把握や緊急時の対応の指導を受けたいという提案があり、看護職員を勤務体制に入れるなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に配置して目標を持って取り組んで行えるように努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、その段階に応じた研修に参加している。研修で学んだことは他職員に周知徹底し業務に反映出来るようにしている	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は資料をコピーして職員に配布するほか、閲覧できるようにしている。法人研修は月1回食中毒、嚥下、緊急時の対応、接遇、ノロウイルスなどについて実施している。内部研修は必要に応じて、随時実施している。職員は働きながら介護技術や知識を身につけるよう取り組んでいる。	・内部研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内・市内の研修会にて交流する機会を作ってサービスの向上、質の高い介護を目指している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安にならないよう常時声掛けを行い、会話の中で得た情報は職員全員が共有し関係づくりに役立てている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会を頻繁にして頂く。その中でご家族に出来る限り日常の生活の状態を伝え、不安や要望を相談しやすい環境を整えるようにしている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	始めに本人とご家族から要望を傾聴する。本人にとって何が一番幸せであり、必要なのか見極めた支援を行いご家族にも安心して頂けるよう努めている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と生活を共にする仲間であり又人生の先輩であるという意識を持ち、共に笑ったり泣いたり出来る関係作りに努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と連絡を密にし、本人の様子や健康状態を伝えたり、面会をお願いするなど共に支えて行く関係を築くようにしている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所で時々過ごせるよう、ご家族に面会や外出をお願いして、以前の生活が途切れないよう支援している	友人や知人、親戚の人の来訪、馴染みの理美容院の利用、手紙や年賀状、暑中見舞い、電話の支援、自宅周辺のドライブの他、家族の協力を得ての外泊、外出、外食、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりの時間を尊重しつつ孤立することのないよう、互いに協力してやれるようなレクリエーション・作業の支援に努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に変えられても、面会やお見舞い等により情報収集をし、本人・家族からの相談にいつでも対応できるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向は家族会や面会時に聞いて把握に努めている	アセスメントの他、日常の関わりの中で利用者の言葉や行動などをケース記録やセンター方式のシートに記録する他、アセスメント表や課題分析表を独自に作成して一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用していた施設や在宅のケアマネからアセスメントをして情報収集に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームの一日の生活のリズムに添ってバイタルチェック、生活チェック表で健康管理をし、その方の出来る範囲でレク活動や家事参加を促している		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回スタッフ会議を全員で行っている。面会や電話で家族とも話し合い、現状に合った介護計画作成に努めている	計画作成担当者、管理者、利用者を担当する職員を中心に月1回ケアカンファレンスを開催し、本人や家族、主治医、看護職等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている他、要望や状況に変化があれば見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は毎日書き、いつでも見れる様にしており、又連絡ノートを作成して職員間で情報を共有して変化の見られた時に見直しをしている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの利用者についての独自の生活歴、個性や希望、現在の心身状態を把握しその人らしく暮らしていく為の現時点での課題を介護計画に取り入れて支援することに努めている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り等大きな行事の時には、ボランティアを利用している。又、2ヶ月に1回ビューティヘルパーを利用。同じ事業所内の保育園児との交流を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	H25年7月より在宅支援診療を利用。月2回の往診あり、先生の間診の元、個別対応している。ご家族(希望者)には薬剤情報提供書の提供などにも応じている	利用者や家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診がある。他科受診は、事業所の看護職による体調管理などの情報を提供して、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果や服薬については家族に電話で連絡をして情報を共有している。緊急時には協力医療機関との協力体制があり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H25年7月より看護師が常駐しているので常に相談・助言を受ける事ができる		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	支援診療により吉水内科と連携。また昭和病院との連携も可能となっている。常に病院関係者とは情報交換・カンファレンスを行い早期退院できるように支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人・ご家族と話し合い、気持ちを大切にしながら主治医の意見をもとに、看護師・職員全員で話し合いを繰り返している。方針を共有し安心・安全を保てるよう取り組んでいる	事業所ができる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族や主治医、看護職、職員と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を共有して、支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリ・ハットが出た時職員で検討会議を開き事故防止に取り組むと共に、利用者各自にあったケアが出来るように心掛けている。看護師による研修や消防訓練を受け緊急時にそなえている	発生時は改善策をその日の職員で話し合い、ヒヤリハット、事故報告書に記録して翌日の朝礼で共有後に、月1回のスタッフ会議で再検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署の協力を得て救急救命法とAEDの使用訓練を受講している他、マニュアルに基づいて発熱時、意識レベルの低下、転倒時の対応について看護職より指導を受けているが、実践力が身につくまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を同グループ内の事業所と合同で行っている。また運営推進会議等で地域の方の連携をお願いしている	年1回、消防署の協力を得て夜間想定避難訓練や初期消火、通報訓練を利用者と一緒にしている。年1回、法人合同の火災訓練を実施している他、竜巻、突風の避難訓練も年1回実施している。避難訓練の状況をDVDにして運営推進会議で話し合い、職員だけの避難誘導の限界がわかり、ケアハウスの利用者に見守りを依頼している。食糧、飲料水、物品等の備蓄もしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、利用者1人1人の人格の尊重に努めている。特に言葉使いに気をつけるよう心掛けている	職員は接遇研修を受講し、理解して一人ひとりの人格の尊重とプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応がある時には管理者が指導する他、職員間で気づいた時に話し合いをしている。個人情報保管し、守秘義務についても遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々観察・会話の中で、利用者の思いを聞けるように努力し何かあれば寄り添い、ゆっくり話を聞いて解決出来る様支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も一応は皆さんに声掛けしている。、日々の状態・1人1人のペースを把握して、個別ケアを取り入れながら毎日楽しく過ごせるように支援している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	来設される美容師さんに好みの髪型にしてくださいとおしゃれを楽しんで頂く。洋服は季節に合った物を着て頂く。また個人的に化粧をしたり、マニキュアを塗っておしゃれが出来るよう支援している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に好みを聞き会話をしながら一緒に料理を作ったり、切ったりしている。また職員と一緒にテーブルを拭いたり、お茶の準備、食器を洗って頂く支援をしている	昼食は法人からの配食を利用し、朝食と夕食は利用者の好みを聞いたり、法人の管理栄養士の献立を利用して事業所で調理している。利用者は調理、配膳、盛り付け、片付け等を職員と一緒にしている。利用者と職員は一緒に同じ食事をしている。月1回のおやつづくりや月2回の外食、季節の行事食、誕生日食、弁当を持参しての花見、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しめるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のメニューのもと、料理を作っており主治医の指示で栄養補助食品を利用している。個人に合わせ、主・副の量を決めており水分量はケース記録に記入し把握している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後自ら歯磨きをされている方もおられる。朝、夕は習慣になっており1人1人対応し、義歯の方は手入れ出来ているか声かけ見守り、夕食後、洗浄液につけ衛生管理している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握。プライドを傷付けない様に周りにも気を配り定期的に声かけし、排泄が上手いくように支援している	排泄チェック表を作成し、排泄パターンや習慣を把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夕食の献立、朝食の献立に食物繊維を取り入れ便秘予防に心掛けている。リハビリ体操、室内ウォーキング等、定期的に運動促すことで出来る限り自然排便を心掛けている		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望の時間の入浴は、人員や時間の関係上難しく対応出来ていない。入浴拒否のあるときは声掛けの仕方を変え努力はするが無理強いはいしない	入浴は2日に1回、10時から12時までの間となっているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、24時間いつでも入浴できるように浴槽に湯を張って準備している。入浴したくない人には、時間の変更や職員の交代、声かけの工夫をして対応している。状態によっては清拭、シャワー浴、足浴の支援をするなど、個々に応じた入浴ができる支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調等見守り観察し、疲労等感じられる時は昼寝を促したり、休憩を取って頂くよう心がけている。夜眠れない時は寄り添い話を傾聴する		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をファイリングし常に内容確認出来るようにしている。看護師の助言を受けたりして日々体調変化の確認に努めている。投薬カレンダーにて管理している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事等の催しをきっかけにカラオケやゲーム等行なう中で個々の好み等知ると共に壁飾りなど作ったりする中でも能力を見出したりして個々を知り、楽しんで頂けることを支援している。	調理、盛り付け、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけ、手摺り拭き、花の苗植え、水遣り、草取り、新聞紙ちぎり、DVDやテレビの視聴、カラオケ、しりとり、貼り絵、ぬり絵、折り紙、習字、ゲーム、ハーモニカ、ピアノ演奏会、季節の花見、室内ウォーキング、花火見物、季節行事(クリスマス会、雛まつり、節分など)、運動会、リハビリ体操、嚥下体操など活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い時期には家族の協力を得ての外出等お願いしている。天気の良い日には体調チェックし、安全を確認し職員と共に散歩に出掛けたり日向ぼっこをする時間を作っている	散歩、日向ぼっこ、季節の花見(桜、チューリップ、コスモス、紅葉狩りなど)、花火見物、自宅周辺のドライブ、馴染みの理美容院の利用、法人の文化祭、家族の協力を得ての買い物、外食、墓参り、法事への出席など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かり金としてご家族より預かっている。外出行事で買物をする時は横で見守り、支払いの支援をしている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば、電話を掛けて頂き、手紙は職員の声かけにより、年賀状・季節の挨拶等のハガキを出している		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は広くし、家具は利用者が移動しやすく配置している。又季節ごとの作品を利用者と一緒に作り、壁に飾っている。温度・湿度管理を含め、清潔かつ快適な生活空間の保持に努めている	共用空間は室内ウォーキングができるほど広く、壁には利用者と一緒に作った羽子板や鬼の面の貼り絵、習字、カレンダー、行事の写真を飾り、生花を活けている。テレビの前にはコの字型ソファが置いてあり、利用者の居場所となっている。広い台所では利用者と職員が一緒に下ごしらえや食器洗いをしている。温度、湿度、換気、明るさに配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で自席を決めて居場所を作っている。又、その時々の人間関係等により席替えをし、利用者同士が落ち着いた生活が送れるよう工夫している		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物を居室に置くことにより穏やかに過ごせるように工夫している	鏡台、タンス、机、椅子、衣装かけ、絵画、造花、人形、ぬいぐるみ、衣装ケース、ベッド、ジグソーパズル、化粧品類、作品、アルバム、雑誌など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事手伝いや作業をしていただく時は必ず職員が見守り、安心安全な環境を作る様に努力している		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあかつきの里

作成日：平成 26 年 5 月 26 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35 (15)	意識レベルの低下、転倒時の対応について指導を受けているが実践力が身につくまでには至っていない。	全職員、実践力を身につける	実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練を継続する。	1年間
2	5 (4)	運営推進会議のメンバーについて、家族からの参加は定着しているが、地域メンバーの拡大までには至っていない。	地域住民等の参加メンバーの拡大	地域へのネットワーク作りをする。 ・自治会長を通して自治会へ ・民生委員の知人・友人 ・ボランティアの参加 職員の研修(スキルアップ度報告)ヒヤリハットの報告等会議内容をもっと有意義にする。	1年間
3	14 (9)	研修で学んだ事は全職員に周知徹底し、業務に反映できるように今後も継続し更に充実させる。	内部研修の充実	研修後、毎日の朝礼時、又はスタッフ会議時に復命報告する。運営推進会議時、報告する。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。